

「つみたてNISA」で人気のインデックス型投信! しかし「各指数の長期の値動きや積み立て効果はあまり知られていない」と言われている。恒例の多様な地域・資産・期間での積立シミュレーション!!

商品マーケティング企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

「つみたてNISA」で人気のインデックス型投信! しかし「各指数の長期の値動きや積み立て効果はあまり知られていない」と言われている

2018年7月7日付日本経済新聞朝刊が「今年から始まった積み立て方式の少額投資非課税制度『つみたてNISA』。利用者が購入する商品の上位には、様々な海外株の指数に連動するインデックス型投信が並ぶ。しかし各指数の長期の値動きや積み立て効果はあまり知られていない。何を選んだらいいのか考えてみよう。」(下線は筆者、URLは後述[参考ホームページ]①)と報じていた。

上記記事は、5つの株式指数を用いて10年、20年と言う積み立てを検証している。リターンとリスク(とグラフ)は「各指数そのもの」で、積み立てとは関係ない。積み立てと関係があるのは、「積み立て累計投資額に対する資産の倍率」で計算される「積み立て成績」である。これは当コラムで、2013年2月8日付日本版ISAの道その2から直近2018年4月16日付日本版ISAの道その219まで5年以上、定期的に報告してきた積立シミュレーションに通じるものでとても有用である(URLは後述[参考ホームページ]②)。

この記事には2018年5月末までの20年の積み立て成績として高い順に「米国株 2.63倍、新興国株 2.61倍、先進国株 2.33倍、先進国+新興国 2.30倍」等とあり、新興国株は20年では高い方だが、10年では上記指数で最低となったなどと出ている。

ただ、株式指数のみの検証で、REITや債券など、幅広い資産に投資した場合が無い。NISAでは日本債やグローバル債、米ハイイールド債やエマージング株やグローバルREIT、エマージング債を使った積み立て投資もある。そこでこうした指数の「積み立て成績」も加えて一覧にしたのが上記テーブルである(赤い枠が日経記事に掲載されたものの再現)。

毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の積み立て成績

□ ……2018年7月7日付日本経済新聞朝刊に掲載されたもの。

*積み立て成績は累計投資額に対する現在の時価の倍率。

2018/5/31

ベンチマーク	10年	20年
	積み立て成績	積み立て成績
日本株(配当込み)	1.83	1.84
日本債	1.11	1.23
グローバル債(日本を除く)	1.23	1.54
米ハイイールド債	1.66	2.23
グローバル株(日本を除く先進国)	2.02	2.33
エマージング株	1.55	2.61
グローバルREIT(日本含む)	1.78	2.51
エマージング債	1.54	2.37
8資産平均	1.59	2.08

(出所:ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

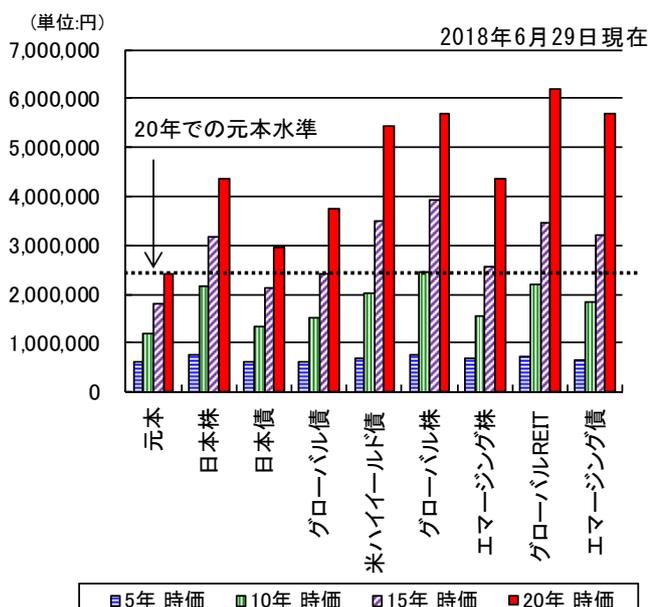
今回もまた、投信に使われる事の多いベンチマークを過去にわたり検証し、積立投資のリターン/リスクおよび積立の有効性を、多様な地域・資産・期間で見る。先の記事に「成績は時期によって異なる」とあった通り、その時期についても細かく見る。

2018年6月末までいずれの期間も利益となり、20年でリターン2倍超の資産が半数

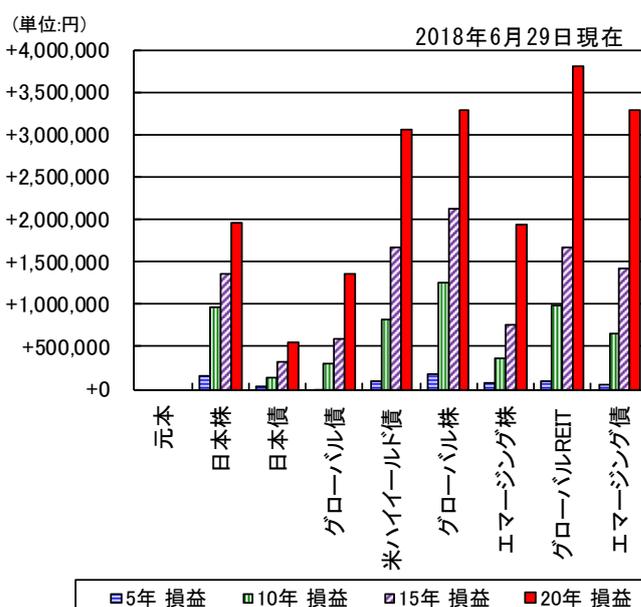
まず、2018年6月末時点で、5年・10年・15年・20年間、1万円を毎月投資し続けた積立の検証結果から見る。下記グラフの左が時価、右が損益(*手数料等は無視)。結果は、いずれの期間でも利益となり、資産によっては10年の投資期間で元本に対してリターンが2倍超となるものがあったが、特に20年になると下記ベンチマークの半分は、リターンが2倍を超えていた。

投資期間 5年・10年・15年・20年

2018年6月29日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の **時価** *左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



2018年6月29日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の **損益** *左から投資期間 5年・10年・15年・20年。



■5年 時価 ■10年 時価 ■15年 時価 ■20年 時価

■5年 損益 ■10年 損益 ■15年 損益 ■20年 損益

(出所:ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

(出所:ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを、当コラムで2013年2月8日付日本版ISAの道その2から継続して使用している。2018年7月7日付日本経済新聞朝刊で用いられたものと異なるものもある(以下同じ)。

詳しく見ると、**5年ではグローバル株(次いで日本株)のリターンが最も良かった。10年でもグローバル株(次いでグローバルREIT)、15年でもグローバル株(次いで米ハイイールド債)、20年ではグローバルREIT(次いでエマージング債)のリターンが最も良かった。**

上記グラフで目立つのが投資期間20年である。2018年6月末まで20年積立投資を続けた場合、グローバル株のリターンも良かったが、グローバルREITやエマージング債はグローバル株と同水準またはグローバル株以上に良かった。**元本に対する時価(積み立て成績)の大きい順に、グローバルREIT(約2.6倍)、エマージング債とグローバル株(約2.4倍)、米ハイイールド債(約2.3倍)となっており、平均が約2.0倍で、エマージング株と日本株(約1.8倍)となっている。**

前回コラムで、2018年6月にNISAで投信に投資する投資家に最も人気の投資対象がグローバル株だったと書いたが、それは積立でも有効そうだ(URLは後述[参考ホームページ]③)。

2018年6月末時点以外、積立の終了時期を変えて検証

ここで積立の終了時期を変えて検証する。積立投資は「出口」、つまり、いつ終わるかがとても重要となる。20年間の積立投資で元本の**成長が最小だったのは、1989年にスタートしたケース。積み立てを終えたのが2008年**

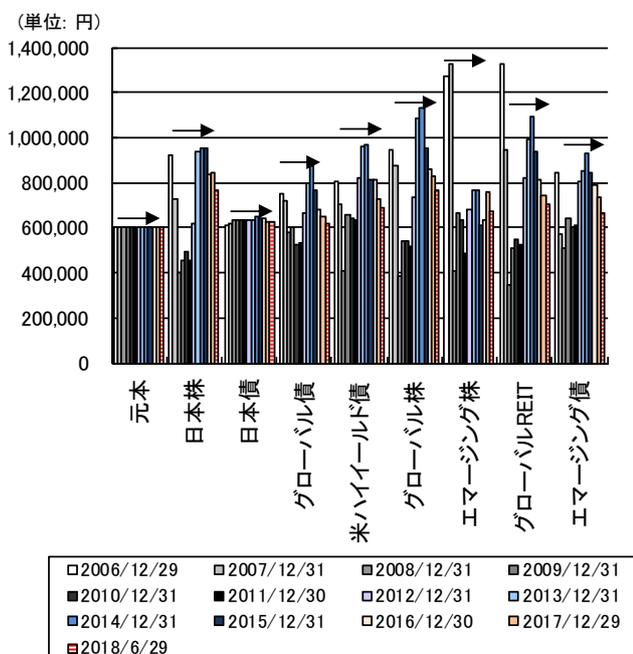
のリーマン・ショック直後で、株価の大暴落と急速な円高が起きた最悪のタイミングで換金したためです。」(2018年3月3日付朝日新聞朝刊～URLは後述[参考ホームページ]④)、「積み立ては後半になるほど投資額が膨らむため、投資をやめる時期の相場環境に結果が大きく左右される。」(2016年1月4日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]⑤)とされている。

積立は一括投資の様な「投資時期と終了時期の2時点での市場次第」と言うリスクは軽減されるものの、「終了時期の市場次第」と言うリスクがある(*積立期間中に市場価額が上下して平均投資単価が時価を上回るリスクもある)。20年の積立投資を目指して始め、期間の途中でリターンが2倍になったとしても、投資の終了時期によっては、元本を下回りマイナスとなる場合もある。そこで終了時期の検証をする。2006年～2017年の各年末と2018年6月末までを検証した結果である。まずは投資期間5年である。

投資期間5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 時価

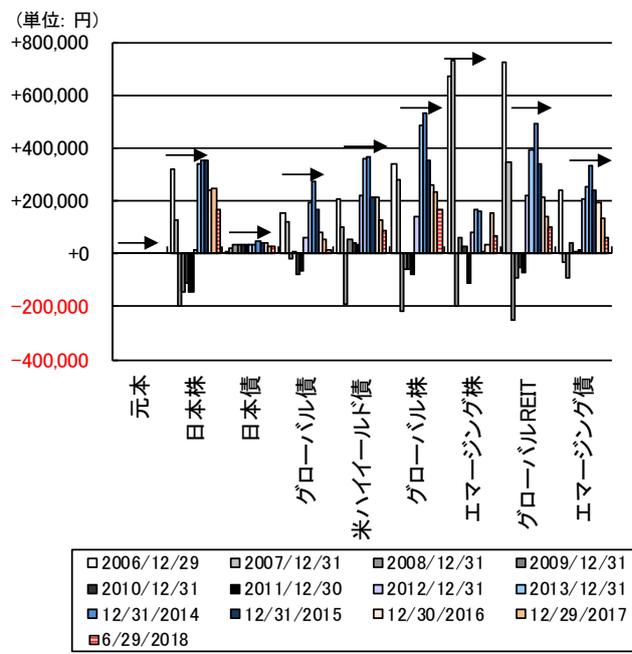
*左から2006年～2017年の各年末、2018年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 損益

*左から2006年～2017年の各年末、2018年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

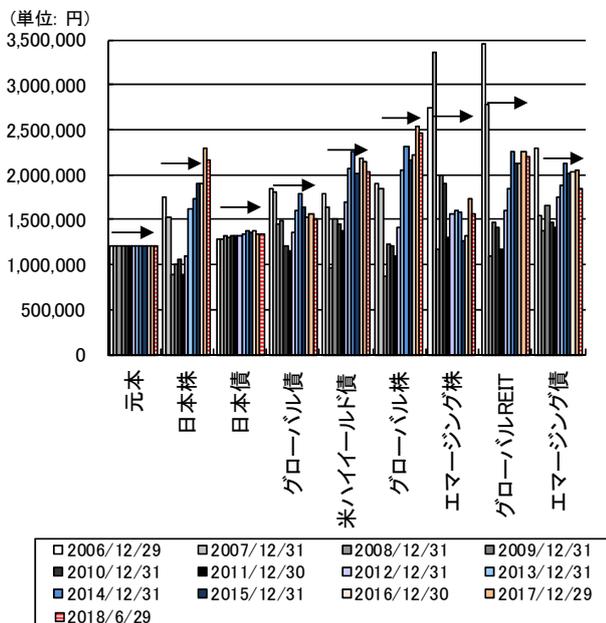
上記グラフを見ると、グローバル REIT・グローバル株・日本株はリーマン・ショック(2008年9月)後 2008年末から2011年末まで損失が続いている。ただ 2012年末に回復、2014年末にかけ利益が拡大している。エマージング債は2007年末と2008年末で損失、米ハイイールド債は2008年末に損失となっている。

次いで投資期間10年である。次頁グラフの通り、投資期間5年に比べ総じて黒字化している。グローバル REITとグローバル株は、投資期間5年では2008年末から2011年末まで損失だったが、10年では、2008年末と2011年末だけで損失である。エマージング債は5年では損失の時もあったが、10年ではどの時点でも利益となっている。グローバル債は5年で2008年末・2010年末・2011年末いずれも損失だったが、10年では2011年末のみ損失となっている。総じて損失となる年が減り損失額も小さくなっている。ただ、日本株は2008年末から2012年末まで損失であり、投資期間5年より損失年が増えている。

投資期間 10年

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 時価

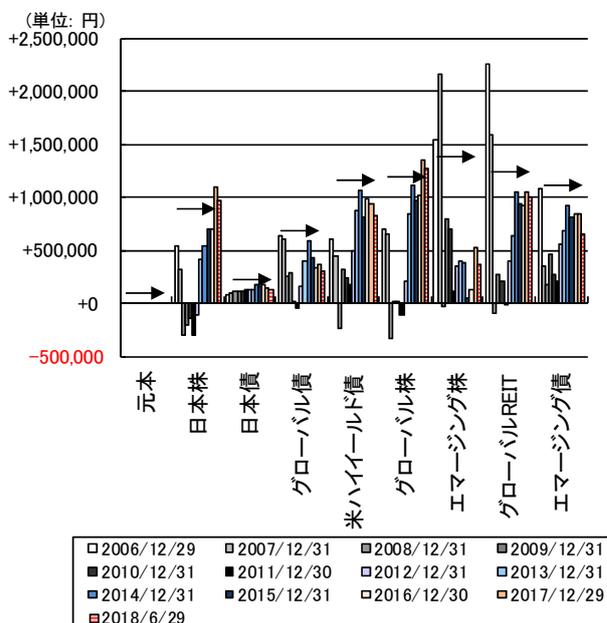
*左から2006年～2017年の各年末、2018年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 損益

*左から2006年～2017年の各年末、2018年は6月末。



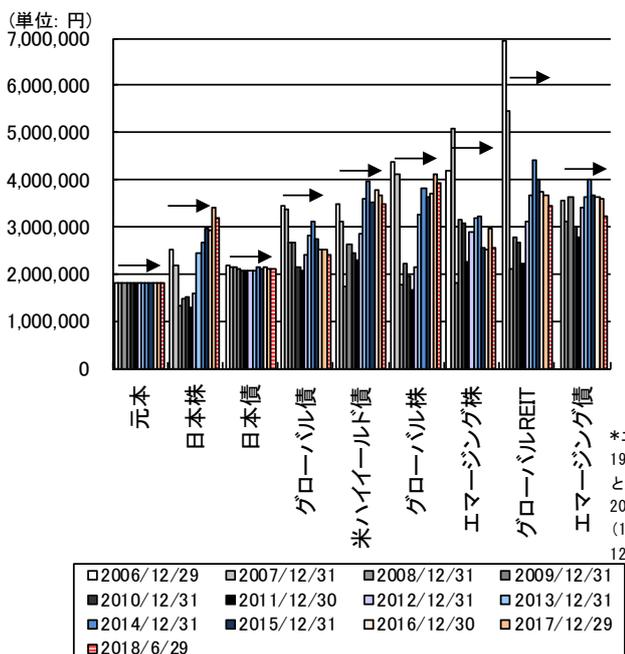
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

そして投資期間 15年・20年である(下記・次頁参照)。10年と比べ、黒字化する傾向がより鮮明となる。大半がいずれの時点でも利益、もしくは、見えないくらいの損失にとどまる。日本株は2013年に黒字化した。この様にリーマン・ショック(2008年9月)の様な相場暴落の中でも、より長期の積立投資では良好な結果になっている。

投資期間 15年

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 時価

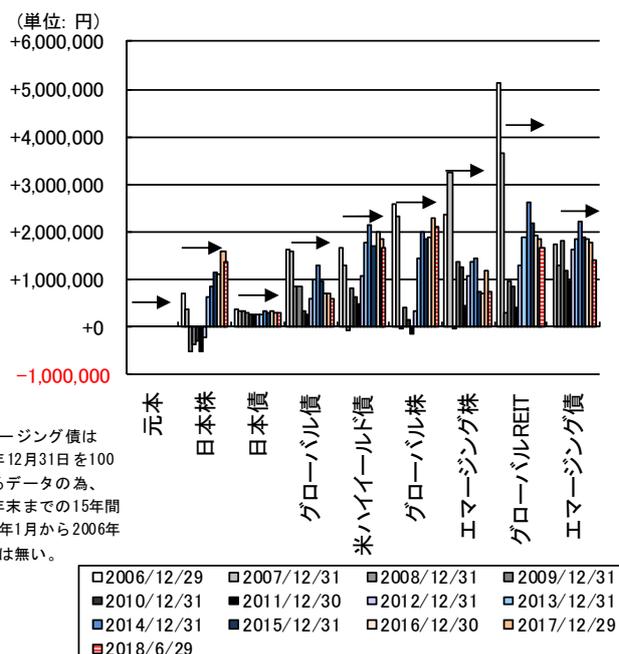
*左から2006年～2017年の各年末、2018年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 損益

*左から2006年～2017年の各年末、2018年は6月末。



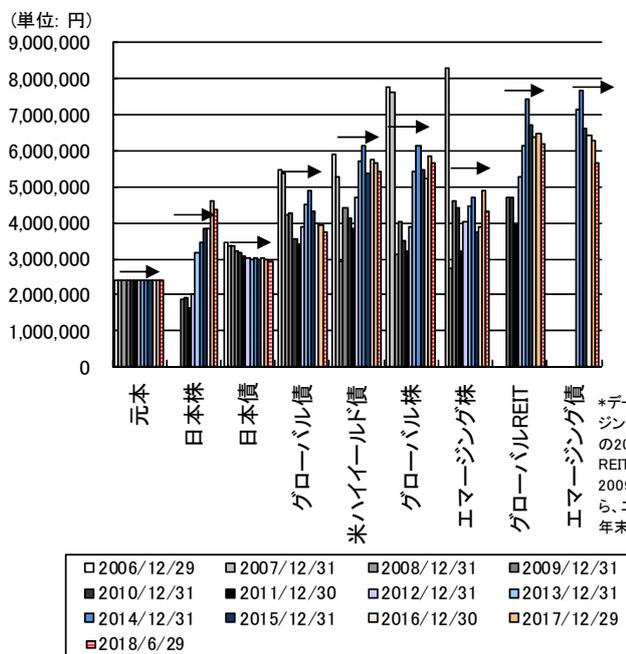
(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

*エマージング債は1993年12月31日を100とするデータの為、2006年末までの15年間(1992年1月から2006年12月)は無い。

投資期間 20年

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の 時価

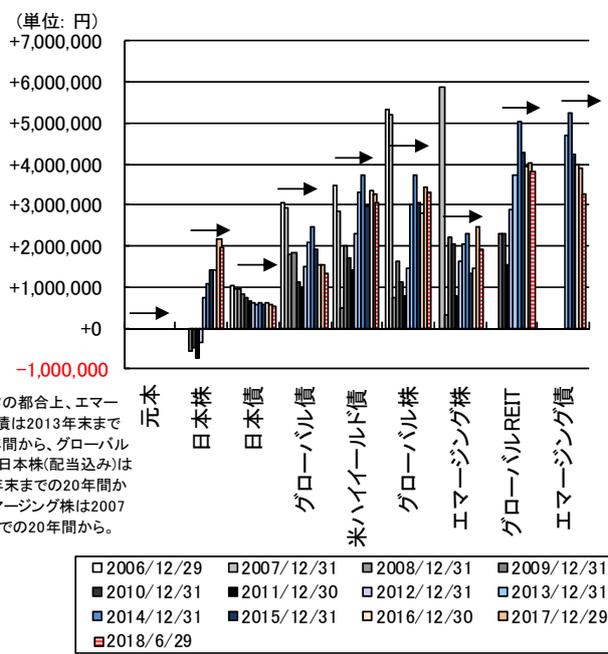
*左から2006年～2017年の各年末、2018年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

毎月末に10000円ずつ20年間購入した時の 損益

*左から2006年～2017年の各年末、2018年は6月末。



(出所: ブルームバーグより三菱UFJ国際投信投資顧問株式会社商品マーケティング企画部が作成)

*データの都合上、エマージング債は2013年末までの20年間から、グローバルREITと日本株(配当込み)は2009年末までの20年間から、エマージング株は2007年末までの20年間から。

尚、積立投資と共に金融庁がその効果を強調している(資産の)分散投資、バランス型ファンドは、以上の検証の組み合わせに近い、もしくは、ベンチマーク間の「負の相関」があれば、よりリスクを低めてくれ損失をもっと少なく出来る可能性もあろう。20年でも終了時によっては損失となった日本株についても先の資産との分散をすることなどでつみたてNISA(あるいは一般NISA)の投資対象として組み込む意味は十分あると思われる。

以上、冒頭記事の「今年から始まった積み立て方式の少額投資非課税制度『つみたてNISA』。…(略)…。何を選んだらいいのか考えてみよう。」の少しでもサポートになれば幸いである。つみたてNISA、iDeCo(イデコ)/個人型確定拠出年金、そして一般NISA(成人NISA)、ジュニアNISA、職場積立NISAといった節税出来る金融商品を使い、日本株も含め多様な選択肢から積立投資をして資産形成の一助にしてほしい。

※1: つみたてNISAの対象商品…つみたてNISAで投資できる商品は、金融庁が承認した投資信託に限られる。具体的には、販売手数料が無料(0%)、信託報酬が最大で1.5%以下などの金融庁が示す要件を満たす投資信託。2016年11月末時点で、要件に該当する投資信託は約50本と、公募投信(約5000本)のわずか1%だったが、2017年7月末には120本に増加(事前相談数)。正式な届出の初日2017年10月2日時点で公募投信103本、最新2018年7月3日時点では公募投信149本、ETF3本である(うち指定インデックス投信132本、アクティブ運用投信等17本)。以上、金融庁が示す要件や個別ファンド名など詳細および更新情報は金融庁HP参照(URLは後述[参考ホームページ]⑥参照)。また、2017年4月24日付日本版ISAの道その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」、2017年9月11日付日本版ISAの道その195「『つみたてNISA対象(仮確定)商品』は114本! 税制改正要望で口座開設申込み即日買い付け可!! その中、現行NISAで8月に投資された先は?」も参照の事(URLは後述[参考ホームページ]⑦参照)。

以上

[参考ホームページ]

①2018年7月7日付日本経済新聞朝刊「つみたてNISA 何に投資?『先進国+新興国』型は有力」…

「<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO326983906072018PPD000/>」、

②2013年2月8日付日本版ISAの道 その2「ISA口座と特定口座(一般口座)をセットにした積立投資を考える。エマージング債やグローバルREIT、ハイイールド債、エマージング株などが注目(DC/確定拠出年金にも活用可能)。」…「<https://www.am.mufg.jp/text/130208.pdf>」、2018年4月16日付日本版ISAの道 その219「投信の積立を始める若年層が増えていると言われる中、人気の日本株の長期積立は有効か?『つみたてNISA』で使われる積立投資を多様な地域・資産・期間で検証!」。

③2018年7月9日付日本版ISAの道 その229「つみたてNISA」の利用者は開始3カ月で51万人!6月は投信全体/NISA既存投資家ではグローバル株や日本株、NISAファンドではグローバル株やアセットアロケーションが人気!!」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_180709.pdf」、2018年1月15日付日本版ISAの道 その210「「つみたてNISA」が本格スタート!申込25万件!!NISA導入以来で最大の純流入となった新規投資家(NISA向けファンド)で12月はグローバル株やエマージング株、アセットアロケーションが人気!!!」…

「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_180115.pdf」。

④2018年3月3日付朝日新聞朝刊「(知りたい投信 なるほどリッパー)長期投資のすすめ:4「20年で2倍」がひとつの目安」…「<http://www.asahi.com/business/stock/toshin/SDI201803054295.html>」。

⑤2016年1月4日付日本経済新聞電子版「積み立て投資は10年続けよ『勝率』は9割“完璧”安心老後のポートフォリオ」…「http://www.nikkei.com/money/column/nkmoney_tokushu.aspx?g=DGXMZO942345502011201500000」。

⑥金融庁「つみたてNISA 対象商品届出一覧」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、 「対象商品の要件についての告示」…「<http://www.fsa.go.jp/common/law/kokuji/20170331nai540.pdf>」。

⑦2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…

「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」、2017年9月11日付日本版ISAの道 その195「『つみたてNISA 対象(仮確定)商品』は114本! 税制改正要望で口座開設申込み即日買い付け可へ!! その中、現行NISAで8月に投資された先は?」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170911.pdf」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…「<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。